

令和6年度 要望に対応した新規課題と設定理由(林業)

研究課題名(細目課題名)	要望の概要/設定理由	研究の概要	所属(研究室)	研究期間	試験研究基本計画2025の重点研究目標
花粉の少ない品種の早期育苗・育成技術の開発 (幼苗の生産技術の開発、コンテナ移植後の生産技術の開発、コンテナ苗の現地植栽試験)	(要望の概要)	花粉の少ない品種のコンテナ苗を効率的に生産するため、幼苗やコンテナへ移植後の成長を促進させる最適な肥料・培地条件を検討するとともに、現地植栽後の成長特性を明らかにする。	技術開発部(森林機能グループ)	2024～2026	イ 森林の整備による多面的機能の発揮
	閉鎖型採種園で生産された種子による花粉の少ない苗木の育成について、成長を促進させる肥料条件や生産コストを削減する技術の開発を要望する。				
	(設定理由) 花粉の少ない苗木の早期育成や生産コストを削減する技術を開発することにより、苗木の安定供給につながり、花粉発生源対策及び循環型林業の推進が期待される。				
早生樹等の効率的な苗木生産及び育林技術に関する研究 (コンテナ苗木生産技術の検討、育林現場における施業方法の検討)	(要望の概要)	センダンの高品質なコンテナ苗を効率的に生産するため、発芽促進方法や最適な肥料条件等の検討を行う。また、植栽後の成長量等を継続的に調査するとともに、優良材生産に向けて間伐等の施業方法の検討を行う。	技術開発部(資源利用グループ)	2024～2026	イ 森林の整備による多面的機能の発揮
	早生樹のセンダンについて、植栽後の生育状況を継続的に調査し、植栽後の活着・成長を考慮したより良い苗木生産技術や育林技術の開発を要望する。				
	(設定理由) センダンの優良な苗木生産及び育林技術を開発することにより、苗木の安定供給及び植栽地の増加につながり、循環型林業の推進に貢献できる。				
海岸クロマツ林の保全・管理技術に関する研究 (海岸クロマツ林の施業方法の検討、海岸クロマツ林の虫害防除方法の検討)	(要望の概要)	海岸クロマツ林を保全するため、現地の実態を調査し、間伐方法等の検討を行い、施業指針を作成・提案する。また、マツノマダラカミキリの発生時期を調査し、適切な薬剤散布時期の検討を行う。	技術開発部(資源利用グループ)	2024～2026	イ 森林の整備による多面的機能の発揮
	田原市渥美地区のクロマツ林について、現地の実態を調査し、施業指針の作成を要望する。また、マツノマダラカミキリの発生時期を調査し、薬剤散布時期の検討を要望する。				
	(設定理由) 海岸クロマツ林の現状やマツノマダラカミキリの発生時期を調査し、施業指針の作成や適切な薬剤散布時期を明らかにすることで、海岸クロマツ林の保全に貢献できる。				
強度間伐施業地のモニタリングによる効果の検証 (新設施業地のモニタリング、既設施業地のモニタリング)	(要望の概要)	あいち森と緑づくり事業における強度間伐施業地について、施業後の土砂流出量、下層植生、開空度、成長量等を継続的に調査し、施業効果の検証を行うとともに、今後の施業方針の作成・提案を行う。	技術開発部(資源利用グループ)	2024～2028	イ 森林の整備による多面的機能の発揮
	あいち森と緑づくり事業における強度間伐施業地について、残存木の成長状況、光環境、植生回復状況を継続調査し、今後の間伐の必要性や間伐時期の判断等、施業方針の検討を要望する。				
	(設定理由) 強度間伐施業地を継続的に調査し、施業効果を検証するとともに、今後の施業方針を示すことで、あいち森と緑づくり事業の推進や森林の多面的機能の発揮が期待される。				

研究課題名(細目課題名)	要望の概要／設定理由	研究の概要	所属(研究室)	研究期間	試験研究基本 計画2025の 重点研究目標
(調査)エリートツリー等の植栽後の成長特性調査 (植栽地の条件による成長特性調査)	(要望の概要)	本県におけるエリートツリーの成長特性を把握するため、エリートツリー由来の苗木を現地に植栽し、植栽後の成長量等の調査を行う。	技術開発部(森林機能グループ)	2024～2028	イ 森林の整備による多面的機能の発揮
	成長等の優れたエリートツリーについて、苗木を現地に植栽し、成長量等を調査し、本県における成長特性を明らかにすることを要望する。				
	(設定理由) エリートツリーの植栽後の成長特性を明らかにすることにより、エリートツリー由来の苗木の需要増加につながり、循環型林業の推進が期待される。				